

授業科目名	児童家庭福祉(2100610)		
時間割名	児童家庭福祉(70108)		
時間割担当	林聖子		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	集中		

授業の目標・概要

児童の人権を踏まえた児童家庭福祉のあり方について、歴史的変遷を学ぶとともに、現代社会における制度や体系について学ぶ。またそれらを通して日本の社会福祉政策における子どもや家族のあり方や課題について考える力を養う。

学習の到達目標

1. 子どもの権利を理解し、子どもの立場に立った問題の捉え方ができる
2. 子どもや家庭を取り巻く環境を知り、現代の子どもや家庭の今日的な困難や課題について説明できる
3. 児童家庭福祉に関する法制度を理解し、子どもや家庭の課題に対して適用できる
4. ソーシャルワークの考え方を理解し、その方法論を活用できる
5. 子どもと家庭の現代的課題について、子どもの権利に基づいた支援のあり方を考えることができる

授業方法・形式

1. 講義
2. グループワーク
3. レポート学習

授業計画

- 第1回 子ども家庭福祉とその変遷
- 第2回 子どもや家庭を取り巻く環境と児童家庭福祉
- 第3回 子どもと家庭への支援活動指針 児童の権利に関する条約
- 第4回 子どもの権利と権利擁護
- 第5回 子どもと家庭を支援する法の理念 児童福祉法等
- 第6回 子どもと家庭の福祉に関連する法律 児童虐待防止法等
- 第7回 子どもを支援する施設・機関の理念 1 児童相談所、福祉事務所等
- 第8回 子どもを支援する施設・機関の理念 2 児童福祉施設、保育所等
- 第9回 子どもと家庭を支援する社会的養護
- 第10回 子どもと家庭を支援するソーシャルワーク
- 第11回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉 1 児童虐待と非行
- 第12回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉 2 子どもの貧困
- 第13回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉 3 障害児
- 第14回 子どもと家庭に関する現代的課題と社会福祉 4 ひとり親家庭
- 第15回 期末試験

成績評価の基準

成績評価の基準 定期試験50% 平常点20%（出席状況 15%、学習態度・意欲5%） レポート30%（振り返り14%、課題16%）

準備学習・復習及び授

- ・原則テキストに沿って授業を行います。授業範囲を事前に読んでおくことが望ましい。
- ・授業で行うグループワークには、知識が必要です。授業で学んだ内容については必ず復習しておくこと。

履修上のアドバイス及

- ・グループワークにおいて、積極的に自分の意見を述べ合うこと。
- ・毎回授業の最後に「振り返りレポート」を書いてもらいます。必ず提出すること。

教材・教科書

「子ども家庭福祉への招待」北川清一 監修・編著（2018）ミネルヴァ書房

参考書

「子どもが笑顔になるスクールソーシャルワーク」高良麻子・佐々木千里・鈴木庸裕 編（2014）かもがわ出版